

第3回 パラスポーツの振興とバリアフリー推進 に向けた懇談会



パラスポーツの振興と
バリアフリー推進に向けた懇談会

「東京都の取組」

< 報 告 >

報告事項 1

東京2025デフリンピック開催に向けた都の取組について

- デフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会で、100周年の節目となる大会を日本で初めて開催
- 大会に向けた準備を進めるとともに、大会の気運を盛り上げる取組や、「いつでも・どこでも・誰とでも」つながるユニバーサルコミュニケーションの促進など、様々な取組を展開

大会の概要

期間	令和7年11月15日～26日（12日間）
参加国	70～80か国・地域
参加選手	約3,000人
競技数	21競技（陸上、バドミントン、バスケットボールなど）
競技会場	主に都内会場のほか、福島県・静岡県
情報保障	国際手話のほか、スタートランプや旗などを利用した視覚による情報保障を用いる

エンブレム

国内唯一の聴覚障害者のための大学である国立大学法人筑波技術大学の学生がデザイン案を制作し、都内の中高生の投票により決定

コンセプト

人々の繋がりを意味する「輪」をテーマに、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表している。デフリンピックを通して「輪」が繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現



気運醸成の取組、ユニバーサルコミュニケーションの促進

気運醸成の取組

大会の気運醸成はもとより、共生社会の理解促進につなげていくため、特設Webサイトの開設をはじめ、アンバサダーの起用、「みるカフェ」の実施など、様々な取組を展開

東京2025デフリンピック応援アンバサダー



長濱 ねる



川俣 郁美



KIKI

ユニバーサルコミュニケーションの促進

- ・海外から多くの選手・観客が訪れる2025年を契機に、デジタル技術を活用し、「いつでも・どこでも・誰とでも」つながるユニバーサルコミュニケーションを促進
- ・関係局や事業者等と連携し、様々な機会において技術の実証やPRを行うなどの取組を進め、共生社会の実現につなげていく。



CEATEC 2023におけるPR
（令和5年10月17日～20日開催）



きこえないスタッフとの新しいコミュニケーション体験
「みるカフェ」（令和5年11月15日～26日開催）

報告事項1

パラスポーツイベントの実施報告

- 東京2020パラリンピックの感動と記憶を未来へ継承するため、8月24日に「TOKYOパラスポーツFORWARD」を開催
 - 東京2025デフリンピック2年前を契機に、聴覚障害や大会への理解を一層深めるため、「みるカフェ」を期間限定で原宿にオープン
- ➡ バリアフリーへの理解を深める体験やデジタル技術を用いた聴覚障害者との新たなコミュニケーションを体感する機会を提供

TOKYOパラスポーツFORWARD

日程 令和5年8月24日(木) 10:00~20:00

会場 都民広場、都政ギャラリー、
都庁通り、都民ホール

内容 パラ陸上・パラ自転車デモンストレーション
パラスポーツ体験
ステージコンテンツ
共生社会体感ミニセミナー

来場者 延べ4,200人



パラスポーツ体験



パラ自転車デモンストレーション

共生社会を考えるミニセミナー

- ・点字ブロック・白杖の使い方の説明
- ・補助犬のデモンストレーション
- ・電動車いすの乗車体験、福祉車両の説明 など

白杖体験

アイマスクをして白杖で都庁通りを横断する体験

モバイルトイレの設置

移動型バリアフリートイレ「モバイルトイレ」
(トヨタ自動車)を設置



補助犬デモンストレーション



モバイルトイレ

「みるカフェ」

日程 令和5年11月15日(水) から11月26日(日)

会場 ECO FARM CAFE 632 (渋谷区)

内容 ・きこえる・きこえないに関わらず
誰もがつながるコンセプトカフェ
・デジタル技術を活用して、入店、注文
など、きこえないスタッフを含む店舗ス
タッフとのコミュニケーションを体験

来場者 延べ4,490人



みるカフェ (外観)

デジタル技術体験

- ・音声を多言語でディスプレイに表示する技術体験
- ・振動と光によって音の特徴を体感できる技術体験
- ・手話をテキスト変換する技術体験 など

デフの世界に触れるきっかけの提供

- ・手話をモチーフとしたアート展示
- ・大会エンブレムのモニュメント展示
- ・デフリンピック過去大会の映像放映 など



音声翻訳表示ディスプレイ



店内の様子

報告事項 2

都におけるバリアフリー化の主な進捗状況 ハード面（令和4年度末）



エレベーター

都内鉄道駅のエレベーター等による
段差解消（都市整備局・交通局）
（R元末 97.6% → R4末 98.0%）



車椅子使用者対応トイレ

都内鉄道駅の車椅子使用者対応トイレ整備
（都市整備局・交通局）
（R元末 96.8% → R4末 97.2%）



宿泊施設のバリアフリー化

客室等のバリアフリー改修等支援
（産業労働局）（R4実績 21件）
※ R5.8月末時点（交付申請ベース）



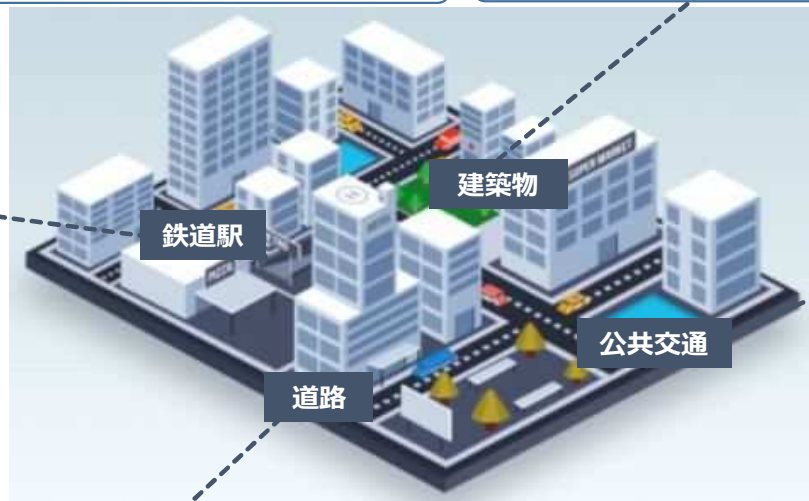
出典：トヨタ自動車(株)ホームページ

ユニバーサルデザインタクシー
次世代タクシーの導入支援（環境局）
（R4末 16,003台）



ホームドア

都内鉄道駅のホームドアの
整備（都市整備局・交通局）
（R元末 45.7% → R4末 51.6%）



ノンステップバス

都内のノンステップバス普及状況
（都市整備局・交通局）
（R元末 94.3% → R4末 96.3%）



エスコートゾーン

都内エスコートゾーン整備箇所数
（警視庁）
（R元末 693か所 → R4末 777か所）



都道のバリアフリー化

特定道路等の整備（H27末 327km【完了】）
優先整備路線の整備（建設局）
（R元末 119km → R4末 147km）



都道の無電柱化

第一次緊急輸送道路（建設局）
（R2末 38% うち環状七号線 52% →
R4末 41% うち環状七号線60%）



出典：移動等円滑化
促進方針・バリアフ
リー基本構想作成に
関するガイドライン
（国土交通省）

まちの面的なバリアフリー化

バリアフリー基本構想等を策定する
区市町村を支援（都市整備局）
（R4末 基本構想：21区10市）
（R4末 移動等円滑化促進方針：4区3市）

報告事項 2

都におけるバリアフリー化の主な進捗状況 ソフト面（令和4年度末）

情報バリアフリー



**車椅子利用者対応トイレの
バリアフリー情報のオープンデータ化**
都内公共施設等の車椅子利用者対応トイレの
バリアフリー情報をオープンデータとして公表
〈福祉局〉（R4 9,047基）



バリアフリーマップ
バリアフリーマップ作成・更新に取り組む
区市町村を支援〈福祉局〉
（R4実績 37区市町村）



とうきょうユニバーサルデザインナビ
だれもが外出に必要な情報が集約されたポータルサイト〈福祉局〉



デジタル技術を活用した聴覚障害者コミュニケーション支援事業
遠隔手話通話システム等を導入したタブレット端末機器を都庁内に貸出、
遠隔手話通話、電話代理支援サービスの提供〈福祉局〉

心のバリアフリー



ユニバーサルデザイン学習
学校等での体験学習等に取り組む区市町村を支援〈福祉局〉
（R4実績 9区2市）



高齢者・障害者などの当事者参画の取組
区市町村による当事者等が参加したまち歩き点検や整備を促進〈福祉局〉
（R4実績 19区11市2町1村）

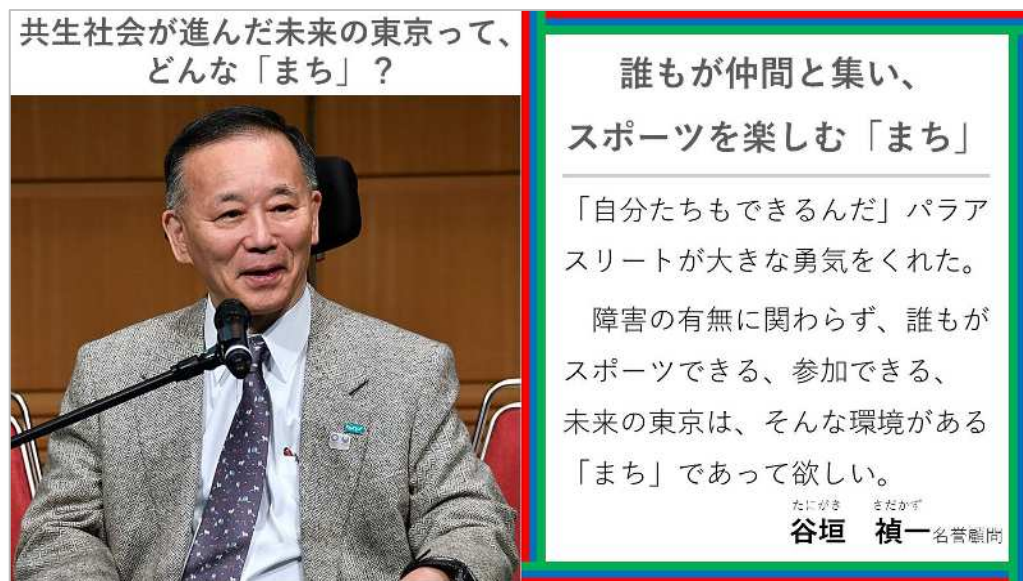


都民への普及啓発
ポスターコンクール・障害者等用駐車区画の適正利用・ヘルプマークなど〈福祉局〉

パラ応援大使活動報告 ①大使からのメッセージの発信

- 東京パラリンピックから2年。8月、9月の「TOKYOパラスポーツ月間」に合わせて、**パラ応援大使からのメッセージ**をSNSやイベント会場で発信

※21組22名の大使からのメッセージを発信



<パラ応援大使からのメッセージ>



<パラ応援大使 公式Instagram>

パラ応援大使活動報告 ②関連イベント等への出演・視察

- ・ イベント等への出演・視察を通じて、パラ応援大使がパラスポーツの振興とバリアフリー推進に寄与。イベントへの参加の様子はSNSで発信

関連イベント等への出演・視察

開催日	イベント	会場	参加応援大使
4.4	東京アクアティクスセンター再開業セレモニー	東京アクアティクスセンター	上原大祐氏、根木慎志氏、花岡伸和氏、三浦浩氏、稲垣 具志氏、川内美彦氏、高橋儀平氏、猪狩ともか氏
8.24	TOKYOパラスポーツFORWARD	都庁周辺（都民広場等）	花岡伸和氏、葭原滋男氏、高橋儀平氏、二條実穂氏、根木慎志氏
9.3	BEYOND STADIUM 2023 in むさブラ	武蔵野の森総合スポーツプラザ	川内美彦氏、三浦浩氏
11.5	BEYOND STADIUM 2023 in 東京体育館	東京体育館	根木慎志氏、猪狩ともか氏
11.20	みるカフェ	ECO FARM CAFE 632	二條実穂氏、三浦浩氏、葭原滋男氏、猪狩ともか氏、野村祐介氏
11.26	ヒューマンライツ・フェスタ東京2023	東京国際フォーラム	高橋儀平氏、三浦浩氏、林家三平氏
11.26	心のバリアフリーポスターコンクール表彰式	東京国際フォーラム	高橋儀平氏、三浦浩氏
1.20	チャレスポ！TOKYO	東京体育館	（ご案内予定）



<4/4東京アクアティクスセンター再開業セレモニー>



<11/20 みるカフェ>

パラ応援大使活動報告 ③パラスポーツ体験

- ・ 本日、パラ応援大使がチームを組み、パラスポーツにチャレンジ
- ・ デフリンピックに向けた「音を見る」新しい技術を体験

車椅子を用いたパラスポーツ体験

根木慎志※大使の
コーチのもと実施



※ 車いすバスケットボール
元日本代表キャプテン

オノマトペ卓球 デモンストレーション

「音を見る」
新しい技術を紹介



※ 雰囲気応援可視化システム
リアルタイムで競技音などをディスプレイ等に表示

**本日の体験を通じて気づいたことがあれば、
この後の意見交換の場で、発言をお願いします！**

今後の展開

2024年：パリパラリンピック開催

2025年：世界陸上、デフリンピック開催

東京
2020

パリ
2024

世界陸上/
デフリン
ピック
2025

大会開催ビジョン

世界陸上

1. 東京ドリーム～ドキドキ、ワクワク、みんなの笑顔が織りなす大会の実現～
2. 東京ブランド～東京と世界を結び、東京らしさを発信～
3. 東京モデル～明日への希望と持続可能な未来へのステップ～

デフリンピック

1. デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ
2. 世界に、そして未来につながる大会へ
3. “誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現



東京2025デフリンピック大会エンブレム

盛り上げに向けて大使皆様の知恵や力をお貸し下さい！

「2025年世界陸上・デフリンピックとその先へ」

～ パラスポーツやバリアフリーを通じた共生社会の実現 ～

< 意見交換 >

「大使の方々にご協力いただいたアンケート」

- ① 共生社会が進んだ未来の東京は、
どんな「まち」になって欲しいですか。
- ② ①に向けて、パラスポーツをどのように
生かせると思いますか。
- ③ パリパラリンピックを1年後、
世界陸上・デフリンピックを2年後に控え、
大使自身が行いたい活動・発信、
大使同士の連携等のアイデア

事前アンケート①

共生社会が進んだ未来の東京は、どんな「まち」？

【共生社会（バリアフリーや多様性）の視点】

- 障害の有無や程度に関係なく、誰もがそれぞれの形でスポーツを楽しみながら、夢や感動とともに感じ、お互いが違いを認め、理解し、尊重しあって暮らせる「まち」
- 困っている人・助けたい人が気軽に声を掛け合える「まち」
- 目が合えば誰もが挨拶する「まち」
- 日本古来からの察する文化を、より進化させて世界へ発信する「まち」
- 多様性尊重を意味として共有するだけでなく、多様性の様々な側面を体現できるような「まち」
- 障害のある人たちも、誰もが分け隔てなく生活出来る、世界の模範になれるような都市
- 見た目や固定観念による「健常者」「障害者」という言葉が違う表現になっている「まち」
- 「思いやり」「お互い様」等をもっと当たり前に行動にうつせる様、努力しなければならないと思う。
- 思いやりと笑顔が溢れ、深呼吸できる「まち」

【パラスポーツの視点】

- 障害のある皆さんが、自由にいつでも試合・練習できるフィールドを作ってほしい。
- 体育の授業や地域の運動会で、障害の有無を問わずに普通にパラスポーツが行われている「まち」

事前アンケート②

共生社会が進んだ未来の東京に向け、パラスポーツをどう生かせるか？

【パラスポーツの魅力発信を通じて】

- パラスポーツをもっと発信し、障害の有無に関わらず、誰もが可能性に溢れていることを知ってもらいたい。
- パラスポーツを通して、弱みではなく強みを最大限活かすことの楽しさを子供たちに届ける。
- 困難を乗り越えたその先を見せてくれる、パラスポーツは素晴らしい。
- パラスポーツのおもしろさや選手の凄さをもっとたくさんの人に知ってもらえるように、音楽イベントと一緒に大会を開く等、みんなが楽しめるイベントを開催

【誰もがつながるきっかけに】

- 高齢者や子供たちを見守る地域のつながりに、パラスポーツを通じて、絆が生まれたらいいな。
- パラスポーツでは、ひとりでは「できない」ことを、お互いの協力によって「できる」に変えることができる。そこには、共生社会がある。
- パラスポーツをプレーしている人、応援している人、サポートしている人も楽しみ、夢や感動を共有することが、お互いを理解し、尊重することにつながる。

【その他】

- 競技スポーツからレクリエーションスポーツへの展開
- 世界をリードし、進化し続ける「まち」として、パラスポーツをイベント的ばかりではなく、日常に溶かし込み、あらゆる個性が「共生」していける様な空気を生み出す。

事前アンケート③

活動・発信、連携のアイデア -2024パリ/2025世界陸上・デフリンピックへ-

【パラスポーツ・バリアフリーへの関心拡大】

- パラ応援大使として学校訪問やイベント出演等の露出を増やし、計画的な啓発活動を実施
- 幼稚園、小学校、中学校とパラスポーツを通じて障害について学び、支え助け合う気持ちを学び、広めてもらう活動
- ラジオ・テレビ番組を立上げ、パラスポーツ選手の人柄やここまでの練習、世界のライバルを紹介
- 大使も交えて、TikTok等のSNSで発信し、若者にももっと身近に感じてもらえるような活動を実施

【大使自身が行いたい活動・発信】

- 大学生が自分の専門的な知識・スキルを、いかに共生社会の発展に活かせるか考えるきっかけづくり
- 視覚と聴覚の障害者と、健常者が共通の時間を共有し、何かを達成することで、新たな仕組みや社会を構築
- 音楽に合わせて手話パフォーマンスをする動画を公開

【大使同士の連携】

- 大使チームとしてスポーツイベント等へ参加
- 各大使同士の分野で、活動支援の有意義性を共有し、メディアを通じ支援できればよい。
- 大学生等を集めて、大使がリーダーとなり、各チームで試合をする運動会を開催
- 共に語り合う場所。パブリックビューイングなどを見ながら、皆で楽しめる機会が必要。
笑いの起こる場所から良いヒントが見えてくるのでは。

アンケート（１）

共生社会が進んだ未来の東京はどんな「まち」になって欲しいですか。

大使の皆様が想像した「まち」を、是非お聞かせください。

- ・ だれもが外に出て動いてみたくなるウォーカブルな「まち」
- ・ 多様性尊重を「まち」に関わる人たちが意味として共有するだけでなく、多様性のさまざまな側面を体現できるような「まち」になってほしいと思います。
- ・ お互いが尊重しあって暮らせるまち。
- ・ 小中学校の体育の授業や地域の運動会で障害の有無を問わずに普通にパラスポーツが行われている東京のまち。
- ・ 車椅子などを理由にレストランの入店を断る事のない東京（現在入店拒否あり）
- ・ 学校教育に共生社会やパラスポーツの授業が入っているまち
- ・ スポーツを通じてみんなの想いがつながる「まち」
障がいの有無や程度に関係なく、誰もがそれぞれの形でスポーツを楽しみながら、夢や感動をともに感じ、互いを理解し尊重しあえるまちに。
- ・ 誰もが違いを認め素敵に輝けるまち
- ・ 目が合えば誰もが挨拶する「まち」
17歳から車いす生活になり、街に出るとそれまで見向きもされなかったのにジロジロと見られるようになった。そして目が合ってもそらされるか、見てはいけないものを見たかのような反応が僕を「自分は普通では無くなったんだ」という気持ちにさせた。でも、19歳の時にアメリカで1ヶ月過ごした間、僕と目が合った人たちはみんな挨拶をしてくれた、それが当たり前のように、ごく自然に。それから30年近くが経ったけど、この国の「まち」はどれくらい生きやすくなったのか。きっともっと暮らしやすくなる、そんな想いを込めました。
- ・ おもいやりと絆があふれるまち
生き生きと暮らし、支え助け合え、こんにちわ、ありがとうと誰もが寄り添い
生きづらさを感じない安心できるまち
- ・ 誰もが自由に歩ける「まち」
- ・ 誰もがいつでも笑顔で交流して、その交流からわくわくすることが生まれ、その輪がどんどん大きくひろがっていく東京
- ・ 困っている人・助けたい人が気軽に声を掛け合えるまち。今の時代、様々な生きづらさを感じている人がいると思いますが、もっと相互理解が進めば他人に思いやりを持てると思います。
- ・ 日本古来からの察する文化を、より進化させて世界へ発信する街へ！
- ・ どんな障害のある人たちも、誰もが分け隔てなく生活出来る都市になって、その分野では世界の模範になれるような都市になって欲しい。
- ・ いわゆる見た目や固定観念による「健常者」「障がい者」という言葉が違う表現になっている「まち」であること

- ・ 「バリアフリーであること」を標語化するだけでなく、そもそも「バリアがあること」とは実はどういうマインド（潜在的意識）がある社会のことなのか、という日本ならではの現状課題に一人一人が気づける「まち」であること
- ・ 障害のある皆さんが、自由にいつでも使用できるフィールドを、砧公園、駒沢公園、豊洲臨海公園に作ってほしい。そこでは毎週、試合、ゲーム、練習ができる。
- ・ 市民、行政、事業者が理解ある社会に誰もが参加でき、協力し合い、するほうもされる側も喜び、感謝し合える参加型の社会
- ・ 優しい「まち」

国際化、多様化が進み進化し続ける「まち」東京。

世界をリードし続ける「まち」として、多くのマイノリティーな個性を包み、自然や歴史文化や流行、あらゆる世代や性別に優しく、みんなの思いが形になって現れる「まち」管理される「まち」ではなく、個性が共生する「未来のまち」

そんな「東京」に期待と誇りを持って暮らしたい。

- ・ 街と言う字は土がかさなっている所に行くという字です。その行き先が高さによって世界の見え方も変わるのではないのでしょうか？つまり、健常者の方、障害をお持ちの方も共に住みやすくなる視界のある街になってもらいたいです。
- ・ 我身におきかえて気づかされる事が多くなりました。
若い方にも優先席では気持ちよく席をゆずって下さる事が多くなり、マナーの良さを感じるこの頃です。「思いやり」「お互い様」等をもっと当たり前に行動にうつせる様、努力しなければと思います。
- ・ 緑あふれ、赤ちゃんからお年寄りまで交流ができている、そんな街が望みです。
- ・ 思いやりと笑顔があふれ、深呼吸ができる街
- ・ 共生社会が進んだ未来の「まち」
いろいろな人たちが助け合い、みんなが幸せであたたかい、そして歌が色々なところで聞こえてくる。そんな「まち」になって欲しいです。

アンケート（２）

（１）で回答いただいた共生社会が進んだ未来の東京に向け、パラスポーツをどのように生かせるか、考えをお聞かせください。

- ・ 誰もがパラスポーツに触れ合えるように、競技場までのアクセスがスムーズになると、みんなが外に出やすいまちになる。
- ・ パラスポーツが特別なスポーツではないことが浸透していき、スポーツする人も含めてバリアフリーだということで、みんなができるようになると思います。
- ・ 競技スポーツからレクリエーションスポーツへの展開
- ・ パラスポーツは様々な人と人をつなぐことができる、人と人を区別しないことができるスポーツです。そんな役割を担った新たなスポーツムーブメントを構築していきたい。
- ・ パラスポーツを通して弱みではなく強みを最大限活かす事の楽しさを子供たちに届けることができると思っています。
- ・ パラスポーツをプレーしている人、応援している人、サポートしている人も楽しみ、夢や感動を共有することが、お互いを理解し、尊重することにつながると考えます。
- ・ パラスポーツは多様性にとんでいます。また誰もが諦めてしまいそうなことを様々な工夫や、努力、応援の力で不可能を可能に変える力があります。（例えば、ブラインドの方はサッカーは見えないからできない。車いすに乗っている人はジャブが出来ないからバスケットが出来ない、義足の人は走れないなど、しかしパラスポーツは、ボールを工夫したり、競技用の車いすに乗り換えたり、スポーツ用義足を使用することや、またボッチャのようにスポーツそのものを作り出したり、ガイドやランプなどサポートの力をつかたりして出来ないを出来るに変えている。）
パラスポーツを通じてバイアスはずしたり、障害のあるなしにかかわらずだれもが可能性にあふれていることをパラスポーツを通じて伝えられる。
- ・ 障害のある人々が外に出る、街に存在する状況を作るために、体力づくりとしての運動を提供する。そのためにはパラリンピアンが勝ち負けにこだわらず、スポーツを身近なものとして捉えてもらい、自身が元気であることで自己実現する姿を見せ、障害当事者に自分ごととしてスポーツ（運動）に取り組めるようきっかけづくりを行うこと。例えば、パラリンピアンとスポーツ以外の活動を一緒にすることも効果的だと考えますし、そこに障害のない人々も一緒に参加していることも大切だと思います。
- ・ 高齢者の孤立や子供たちをみまもる地域のつながりに、誰もがパラスポーツを通じて絆が生まれたらいいなあ
- ・ 障がいがあるというだけで、"可哀想、手伝ってあげなくては"という考えを持つ人がいると思います。しかし、パラスポーツについてもっと発信することで、我々障がい者も自由で沢山の可能性に溢れていることを知ってもらいたいです。
- ・ パラスポーツでは、ひとりでは「できない」ことを、お互いの協力によって「できる」に変えることができる。そこには、共生社会がある。

- ・ お互いを知るためにはまず関わる事が大事だと思うので、障害のある人・ない人が一緒にパラスポーツを楽しめるような環境が増えていくといいのではないかと思います。
- ・ 相手の事や事情が解れば距離は縮まると思います。しかし接する機会は少ないですね！パラスポーツを通して私達はあらゆる事を学ばせて頂く機会を頂きました。
- ・ パラスポーツにおける心技体それぞれの作り方から学べることは、企業における人的資本を根幹とする組織人事に役立ちます。
- ・ もちろん一般の方も参加・見学が可能、スポーツ(競技)のルールがわかるように、解説DJが格好よく紹介している。
パラスポーツ選手の育成とスターを育てる事によって、認知度と人気を高める。
(選手にスタイリストをつける)
- ・ 一般の方々がパラスポーツの難しさを体験・経験を基に活動できるか
自発的に支えられる、支えることで達成感を感じるかを見極めて
完全なボランティアではなく、多少でも公益性として認めてもらえると良い
- ・ 世界をリードし、進化し続ける「まち」としてパラスポーツをイベント的ばかりではなく、
日常に溶かし込み、あらゆる個性が「共生」して行ける様な空気を生み出す。
- ・ 競技者だけではなく、障害をお持ちの方も楽しむ事の出来る施設の充実を拡大する事がパラ
スポーツの発展につながると考えております。
- ・ 不可能な事はない！と思わせる選手の皆様の活躍は凄いと思います。練習場や施設の充実が
もっと必要ではないかと感じています。
- ・ 彼らが頑張る姿を見せてくれることで、私たちの大きなエネルギーとなります。
困難を乗り越えたその先を見せてくれる、パラスポーツは素晴らしい。
- ・ 「1校1パラスポーツ部」ができると良いと思います。
外部指導者の起用も検討できることから、地域との連携も可能であると考えます。
- ・ パラスポーツのおもしろさや選手の方々の凄さをもっとたくさんの人に知ってもらえるよう
に音楽イベントと一緒に大会を開くなどみんなが楽しめるイベントを開いたらおもしろいと思
います。

アンケート（３）

パリパラリンピックを１年後、世界陸上・デフリンピックを２年後に控え、大使自身が行いたい活動・発信、または大使同士の連携等について、アイデアをお聞かせください。

- ・これから社会に出る大学生が、自分の専門的な知識やスキルを、いかに共生社会の発展に活かせるのか考えてもらうきっかけをつくる。
- ・自分のできる範囲で応援していきたい。
- ・聴覚障害者の一般就労、通常学級での学び、スポーツ等の場でどのように健聴者とのコミュニケーションが成立しているのか。手話や文字（アプリ活用を含む）をシーンごとにどう使い分けられるのか、分けられないのかを学びたい。
- ・私のNPOで実施しているパラスポーツの大会に大使チームとして参加して頂く事や、大使の皆さんの発信力を使って一緒に盛り上げていけるような連携をずっと前から実施したいと思ってます。
- ・東京都の皆さんや大学生を集めて、大使がリーダーとなり各チームで試合をする運動会を開催したいです。（上記、当団体ではパラ大学祭という大学生のパラスポーツ運動会を実施しているので、そのコラボが出来ると面白いな。と）

【参考】

●Team Beyondの記事

支援企業・団体の声 特定非営利活動法人D-SHIPs32 | TEAM BEYOND | TOKYO パラスポーツプロジェクト公式サイト (para-sports.tokyo)

●【総勢100人超】え、ガチ最高じゃん？ 17大学4大学院でのパラスポーツで、勝負と出会いと最高の青春を。 | 障害や国籍、ジェンダーを越えた世界へ【パラ大学祭】

<https://youtu.be/eGKWs-Cud0M>

●明治大学スポーツ新聞部

<https://meisupo.net/special/detail/14161?view=sp>

- ・パラスポーツの魅力の発信
- ・学校等での講演活動にて、多様性に関する気づきが生まれたり、お互いを尊重し合うことの大切さを伝える活動
- ・TEAM大使でのスポーツイベント等への参加
- ・引き続き体験会は重要。パラ応援大使として、学校訪問やイベント出演などの露出を増やし、啓発活動を行いたいです。可能であれば、単発ではなく、計画的に。
- ・講演などで積極的にPRをしていきたい。その際に配布できるものがあればいただきたいです。
- ・幼稚園、小学校、中学校とパラスポーツを通じて障害について学び、支え助け合う気持ちを学び広めてもらう活動
- ・東京パラリンピックによって広まったパラスポーツの認知を風化させず、もっと多くの人に知ってもらい、応援してくれる人を増やすために、イベントやメディアでの発信を行っていただきたいです。

- ・ 視覚と聴覚の障害者といわゆる健常者が共通の時間を共有し、何かを達成する、競争することで、新たな仕組み、社会を構築する。
- ・ 著名な方とパラスポーツ体験をできるイベントを開催する
音楽に合わせて手話パフォーマンスをする動画を公開する など
- ・ 音楽は多くの皆さんに知って頂く力になりますね。イベントやコンサート等で「パラスポーツの応援宜しく！」はアピール出来る事と思います。
- ・ 「パラスポーツ日やバリアフリーの日」を設定して広く一般の方々にも、より認識を深めてもらう様にする。
- ・ いつも日時が合わず会合に出席できず申し訳ありません。様々な競技のパラアスリートのメンタルトレーニングに日々携わっています。パラアスリートから学べることについて、特にメンタル（感情と思考）の部分の作り方、整え方は、シェアできると思います。
大使の皆様とも互いの活動のシェアなどによって何かシステムデザインできることがあれば嬉しいです。
- ・ ラジオ・テレビ番組を立ち上げ、パラスポーツ選手の人柄、ここまでの練習、さらに世界のライバルを紹介していく。
記録も大切だが応援したくなる人物像を深掘りして盛り上げていく。
パリパラリンピックを盛り上げるには個人の人気は絶対に必要です！羨ましい存在になってもらいたい。
- ・ 各大使同士の分野があり、活動支援の有意義性を共有し、情報誌やメディアを通じ（特に食の分野で）推進し、支援できればよいと思っております。
- ・ 世界一の食の都「パリ」でのパラリンピック
前開催地で、世界一多くの食の星が輝く街「東京」の料理人として、パリのシェフ達と食からの多様性・持続性・不変性等の交流・連携イベントをしたい。又、デフリンピックに向けて、精進料理人として「禅」を素とする静寂の利を再考していきたい。
- ・ 共に語り合う場所。堅苦しい公共の場所においての懇談会などではなく、パブリックビューイングなどを見ながら、正直、ビールなどを皆で楽しめる機会が必要だと思いました。そこからのスタート、笑いの起る場所から良いヒントが見えてくるのではないのでしょうか？
- ・ 競技の種類、開催の場所・日時などの告知を誰もが得られる様、わかりやすく、表示してほしいし、していきたいと思っています。（発信も）
- ・ もっといろんな形で交流ができればいいですね。
- ・ パラアスリート、デフアスリートの皆さんの希望や、願いが叶うことにつながる活動をしたいと思います（勉強会、シンポジウム等）。
- ・ 大使の方々も交えたTikTokなどのSNSを利用した発信をして若い人たちにももっと身近に感じてもらえるような活動ができればいいなと思っています。